

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成30年2月13日

【四半期会計期間】 第72期第3四半期（自平成29年10月1日至平成29年12月31日）

【会社名】 大同信号株式会社

【英訳名】 Daido Signal Co.,Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 今井 徹

【本店の所在の場所】 東京都港区新橋六丁目17番19号（新御成門ビル）

【電話番号】 03 - 3438 - 4111（大代表）

【事務連絡者氏名】 上席執行役員財務統括部長 浅田 安彦

【最寄りの連絡場所】 東京都港区新橋六丁目17番19号（新御成門ビル）

【電話番号】 03 - 3438 - 4111（大代表）

【事務連絡者氏名】 上席執行役員財務統括部長 浅田 安彦

【縦覧に供する場所】 大同信号株式会社 大阪支店  
  
(大阪市淀川区三国本町二丁目1番3号  
(NDK大阪ビル))  
  
株式会社東京証券取引所  
  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第71期 第3四半期 連結累計期間	第72期 第3四半期 連結累計期間	第71期
会計期間	自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日	自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日	自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日
売上高 (千円)	12,298,358	12,163,053	21,612,404
経常利益 (千円)	137,594	256,905	1,540,631
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (千円)	113,848	164,857	1,125,662
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	182,639	809,087	1,358,227
純資産額 (千円)	21,832,246	23,616,827	23,006,974
総資産額 (千円)	37,456,828	39,758,706	39,767,153
1株当たり四半期(当期) 純利益金額 (円)	6.39	9.26	63.23
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	48.0	49.3	48.0

回次	第71期 第3四半期 連結会計期間	第72期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成28年10月1日 至 平成28年12月31日	自 平成29年10月1日 至 平成29年12月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	2.93	6.30

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。  
2 売上高には、消費税等は含まれておりません。  
3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生または前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間における世界経済は、先進国を中心に緩やかな回復基調が続きました。米国経済は現政権に不透明感があるものの、個人消費は底堅く企業収益も改善するなど景気回復が続き、ユーロ圏も堅調な景気拡大を持続し、中国は経済政策の効果から景気減速から安定成長に向かい、その他新興国も改善基調で推移するなど、全体として緩やかに回復しています。

また、わが国経済は、雇用・所得環境の改善が見られ設備投資も持ち直し、株高や円安の進行の影響もあり緩やかに景気は回復しているものの、個人消費は十分な回復までには至らず、深刻な人手不足や原油価格の高騰さらには地政学的リスク等が加わり、依然として企業を取り巻く環境は先行き不透明な経営環境で推移しました。

このような状況のもと、当社グループは受注の獲得と拡大に取り組んでまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は121億63百万円（前年同期比1.1%減）となりました。営業損失は28百万円（前年同期は営業損失1億38百万円）、経常利益は2億56百万円（前年同期比86.7%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は1億64百万円（前年同期比44.8%増）となりました。

セグメント別の業績の状況は、次のとおりであります。

#### [ 鉄道信号関連事業 ]

鉄道信号関連事業については、運行管理システム等のシステム製品及び連動装置・踏切装置等のフィールド製品は増加しましたが、ATC（自動列車制御装置）等のシステム製品及び踏切障害物検知装置・集中監視装置等のフィールド製品が減少し、売上高は108億21百万円（前年同期比2.5%減）、セグメント利益は7億51百万円（前年同期比19.9%増）となりました。

#### [ 産業用機器関連事業 ]

産業用機器関連事業については、梯子車・高所放水車制御装置・非接触耐熱IDシステム等は減少しましたが、鉄道車両用ブレーキ自動隙間調整器・金型・メッキ等が増加し、売上高は10億36百万円（前年同期比14.1%増）、セグメント利益は21百万円（前年同期は0百万円）となりました。

#### [ 不動産関連事業 ]

不動産関連事業については、売上高は3億5百万円（前年同期比3.7%増）、セグメント利益は1億41百万円（前年同期比6.6%減）となりました。

(2) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ8百万円減少し、397億58百万円となりました。これは、たな卸資産は29億41百万円増加しましたが、受取手形及び売掛金が37億22百万円減少したことなどによるものです。

当第3四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末に比べ6億18百万円減少し、161億41百万円となりました。これは、賞与引当金が4億72百万円、未払法人税等が1億90百万円それぞれ減少したことなどによるものです。

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べ6億9百万円増加し、236億16百万円となりました。これは、その他有価証券評価差額金が5億26百万円増加したことなどによるものです。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間の研究開発費の総額は5億40百万円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数 (株)
普通株式	30,000,000
合計	30,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成29年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成30年2月13日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	18,018,000	18,018,000	東京証券取引所 (市場第二部)	単元株式数 1,000株
合計	18,018,000	18,018,000	-	-

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成29年12月31日	-	18,018,000	-	1,500,039	-	1,233,716

##### (6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日である平成29年9月30日の株主名簿により記載しております。

【発行済株式】

平成29年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 224,000	-	単元株式数 1,000株
完全議決権株式(その他)	普通株式 17,562,000	17,562	同上
単元未満株式	普通株式 232,000	-	1単元(1,000株)未満の株式
発行済株式総数	18,018,000	-	-
総株主の議決権	-	17,562	-

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式981株が含まれております。

【自己株式等】

平成29年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 大同信号株式会社	東京都港区新橋六丁目 17番19号	224,000	-	224,000	1.2
合計		224,000	-	224,000	1.2

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成29年10月1日から平成29年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成29年4月1日から平成29年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、東邦監査法人による四半期レビューを受けております。

## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	4,512,161	4,280,212
受取手形及び売掛金	8,437,025	4,714,298
商品及び製品	2,747,189	3,185,586
仕掛品	4,615,419	6,814,303
原材料及び貯蔵品	1,928,609	2,232,829
その他	525,165	789,358
流動資産合計	22,765,569	22,016,589
固定資産		
有形固定資産		
土地	6,484,645	6,484,645
その他(純額)	3,566,833	3,487,096
有形固定資産合計	10,051,478	9,971,741
無形固定資産		
投資その他の資産	150,624	131,029
投資有価証券		
投資有価証券	6,404,189	7,272,523
その他	398,860	370,392
貸倒引当金	3,570	3,570
投資その他の資産合計	6,799,480	7,639,345
固定資産合計	17,001,584	17,742,116
資産合計	39,767,153	39,758,706
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,281,456	4,204,718
短期借入金	3,644,682	4,033,432
未払法人税等	230,550	39,976
賞与引当金	776,009	303,306
役員賞与引当金	19,537	11,788
製品補修引当金	240,530	228,192
その他	1,031,324	895,370
流動負債合計	10,224,091	9,716,783
固定負債		
長期借入金	980,242	774,918
役員退職慰労引当金	121,455	128,571
製品補修引当金	162,000	162,000
特別修繕引当金	115,470	120,210
退職給付に係る負債	1,957,530	1,999,095
その他	3,199,389	3,240,300
固定負債合計	6,536,087	6,425,095
負債合計	16,760,179	16,141,878



(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,500,039	1,500,039
資本剰余金	1,233,716	1,233,716
利益剰余金	14,150,354	14,137,239
自己株式	63,214	65,876
株主資本合計	16,820,895	16,805,119
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,389,127	2,915,135
退職給付に係る調整累計額	123,133	104,109
その他の包括利益累計額合計	2,265,994	2,811,026
非支配株主持分	3,920,084	4,000,681
純資産合計	23,006,974	23,616,827
負債純資産合計	39,767,153	39,758,706

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

	(単位：千円)	
	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
売上高	12,298,358	12,163,053
売上原価	9,388,336	8,945,356
売上総利益	2,910,021	3,217,696
販売費及び一般管理費	3,048,505	3,246,501
営業損失( )	138,484	28,805
営業外収益		
受取配当金	89,123	99,290
負ののれん償却額	209,761	209,761
その他	23,087	20,352
営業外収益合計	321,972	329,403
営業外費用		
支払利息	43,322	41,444
その他	2,572	2,249
営業外費用合計	45,894	43,693
経常利益	137,594	256,905
特別損失		
固定資産除却損	21,474	13,759
その他	2,250	-
特別損失合計	23,724	13,759
税金等調整前四半期純利益	113,869	243,145
法人税、住民税及び事業税	44,606	94,418
法人税等調整額	31,466	41,627
法人税等合計	13,140	52,790
四半期純利益	100,729	190,355
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失( )	13,118	25,497
親会社株主に帰属する四半期純利益	113,848	164,857

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
四半期純利益	100,729	190,355
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	49,552	599,707
退職給付に係る調整額	32,357	19,024
その他の包括利益合計	81,909	618,732
四半期包括利益	182,639	809,087
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	195,627	709,890
非支配株主に係る四半期包括利益	12,987	99,196

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。

なお、当第3四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が、四半期連結会計期間末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
受取手形	- 千円	23,899千円
支払手形	- 千円	353,264千円

(四半期連結損益計算書関係)

売上高の季節的変動

前第3四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年12月31日)及び当第3四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年12月31日)

当社グループの主力事業であります鉄道信号関連事業は、主要顧客である国内鉄道事業者や官公庁等の設備投資に伴う売上の比重が高いため、売上高は期末にかけて増加する傾向にあります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)及び負ののれん償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日至平成29年12月31日)
減価償却費	337,946千円	361,328千円
負ののれん償却額	209,761千円	209,761千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年12月31日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年6月29日 定時株主総会	普通株式	178,067	10	平成28年3月31日	平成28年6月30日	利益剰余金

2 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年12月31日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年6月29日 定時株主総会	普通株式	177,972	10	平成29年3月31日	平成29年6月30日	利益剰余金

2 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益または損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	鉄道信号 関連事業	産業用機器 関連事業	不動産 関連事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	11,096,294	907,824	294,238	12,298,358	-	12,298,358
セグメント間の内部 売上高又は振替高	58,625	394,096	12,897	465,619	465,619	-
計	11,154,920	1,301,921	307,136	12,763,978	465,619	12,298,358
セグメント利益	626,539	611	151,474	778,625	917,110	138,484

(注)1 セグメント利益の調整額 917,110千円には、セグメント間取引消去 44,481千円及び各報告セグメントに  
配分していない全社費用 872,628千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない  
一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益または損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	鉄道信号 関連事業	産業用機器 関連事業	不動産 関連事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	10,821,858	1,036,104	305,090	12,163,053	-	12,163,053
セグメント間の内部 売上高又は振替高	65,343	422,481	14,251	502,077	502,077	-
計	10,887,202	1,458,586	319,341	12,665,130	502,077	12,163,053
セグメント利益	751,184	21,808	141,541	914,534	943,340	28,805

(注)1 セグメント利益の調整額 943,340千円には、セグメント間取引消去 43,249千円及び各報告セグメントに  
配分していない全社費用 900,090千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない  
一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	6.39円	9.26円
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	113,848	164,857
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(千円)	113,848	164,857
普通株式の期中平均株式数(株)	17,804,003	17,794,317

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在していないため記載しておりませ  
 ん。

## 2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成30年2月9日

大同信号株式会社  
取締役会 御中

### 東 邦 監 査 法 人

指 定 社 員 業 務 執 行 社 員	公 認 会 計 士	齋 藤 義 文	印
指 定 社 員 業 務 執 行 社 員	公 認 会 計 士	佐 藤 淳	印
指 定 社 員 業 務 執 行 社 員	公 認 会 計 士	石 井 克 昌	印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている大同信号株式会社の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成29年10月1日から平成29年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成29年4月1日から平成29年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

#### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、大同信号株式会社及び連結子会社の平成29年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。  
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。